

## 令和3年度 第1回神戸市地域活動推進委員会

日時：令和3年6月9日（水）

13時00分から15時00分

場所：オンラインにて開催

### 1. 開会

### 2. 出席者紹介

（資料1）

### 3. 議事報告

#### (1) 委員長の選任について

○委員の互選により、中川委員を委員長に選任

#### (2) 地域コミュニティ施策の基本指針の進捗状況について

（資料2）

○事務局説明

○委員発言

「コミュニティ施策の方向性に関する提言」（以下、提言という。）からスタートしてできた「神戸市地域コミュニティ施策の基本指針」（以下、基本指針という。）を基に、行政には施策に取り組んでいただいたが、提言から5年が経過し、今年度のステップの位置づけとなるような次の5年間の目標のようなものを明らかにしていただいた方が、より理解しやすいと思う。5年先にどういう方向へ持っていくのかを、少し補足説明いただけるとわかりやすい。

例えば、当初は自治協議会をつくろうという話で進んでおり、地域の実情に合わせてもう少し柔軟に考えていくという方向にはなったものの、自治会のような自主的な団体と、政策目的でつくられた団体は、構成員が基本的に異なる。その違いが活動の中で明確になっているのかが気になる。

また、ふれあいのまちづくり協議会（以下、ふれまちという。）の構成員の中に自治会が入っているため、地域全体をカバーしているという認識であるが、これも基本

的に地域によってその構成の在り方が異なる。その点についても、これからどういう方向に持っていくか、行政としても位置づけを明確にする必要があると思う。

○委員発言

ふれまちを中心に施策を進めることには同意する。自治会は弱体化しつつあり、兵庫区では婦人会も同様である。その中で安定して機能しているのは、ふれまちや防災福祉コミュニティ（以下、防コミという。）であり、そのようなしっかりした組織を中心として施策を進めていくのが良いのではないかと思う。しかし、ふれまちも全自治会が加入しているところばかりではないため、その点については行政にもしっかり確認いただいたうえで、ふれまちに機能を集結させていくことが必要ではないかと思う。

○委員発言

次の提言については、我々地域活動推進委員会の中で再びチームを組み発信していく話であるかと思う。委員会中での自由な議論を通して現在の指針ができているので、この件についても本委員会の方で議論を進めていくのがよい。

また、地域自治協議会について、ふれまち協を母体にするにしても、構成メンバーや事業、運営の民主性等をある程度規定していないと、公金を投入する正当性がなくなるため、今年度からはその認定要件のようなものについても、本委員会の方で議論をするという理解でよろしいか。議論の進め方について共有いただきたい。

○委員長発言

では、ここで事務局からご見解をお答えいただきたい。1つは、将来的にこの神戸市における地域社会のあるべき姿についての展望を示してはどうかという点について。これについては先ほど、当委員会がそのイメージを出すべきではないかというご指摘もあった。

2つ目は、自治会や婦人会、まちづくり協議会といった任意の地域団体と、将来公共的な団体としてテークオフさせていこうとするふれまちとの関係をどのように整理

していったらよいかという点について。先ほど、一定の公共的団体には認定要件を整理すべきではないかという指摘や、その認定要件の中に運営上のルール等も明示されていくのではないかと、という示唆もあった。すなわち、市長が認定する公共的団体となった場合、会計や監査、会議の方法等様々なルールがあり、それらも含めて認定要件を議論したほうがよいのではないかと、ということである。この認定要件については、後ほど議論する地域福祉センターの扱いにも関連する事項であり、まだ我々のほうで立ち入った議論はしていなかったと思うので、やはりある程度議論の俎上に乗せるべき時期に来ているのではないだろうか。

#### ○事務局発言

1点目について、5年先の指針の展望は必要になってくると感じている一方、昨年度は指針制定から5年を迎えるということで、今年度の取り組みと併せて指針をどうするのかという議論もさせていただいた結果、この大きな5つの指針の方向性は、このまま進めていくべきということになった。その中で、大きな課題となっている担い手不足や、まだ不十分と感じられる部分（区役所の体制充実、支援者間やNPO等との連携強化）について、これらの課題の強化を図り、全市的な施策であるこどもの居場所づくり事業を1つのテーマとしてスタートさせていただいた。

もう少し先の展望という点については、今年度は地域福祉センターやふれまちを中心とした課題や問題点を整理して、次のステップの議論に入らせていただこうと考えており、その中で5年先の話まで議論が進めばと考えている。

2点目のふれまちの件については、元々考えていただいていた地域自治協議会の体裁は整っているものの、一定のルール等が具体的に定まっておらず、基本的に地域の方の自主的な活動やボランティアをベースにしている。その辺りも、次のステップを考える中で、議論をしていく必要があると感じている。

また、ふれまちの認定要件、認定にするかどうかという部分もこれからの検討にはなるが、いわばある程度自治のレベルを引き上げるための議論については、ワーキン

グの中で進めていただきたく思っており、地域の総合的・自律的な運営についても同様である。ただ、地域福祉センターの管理や財政についての議論は、本委員会で進めていきたいと考えている。

○委員長発言

要約すると、認定要件の議論は、いずれこの委員会でせねばならない。また、ビジョンの方向についても、ふれまちをベースとすることには変わりはなく、これについては、既定路線を進んでいきたい。そして、ふれまちを言わば中核とした、地域自治協議会組織を育成する方向で臨んでいくということを確認した。

**(3) 地域活動支援策の検討について**

**(資料3)**

○事務局説明

○委員長発言

事務局からのご説明では、主として地域福祉センターの管理運営の状況調査にシフトされていると思うが、並行して、議題の1番目が施設の使われ方の調査、2番目が施設の利用団体の内容調査のようになっており、いずれも非常に重要である。そのため、地域福祉センターの管理運営の状況調査の設問の在り方によっては、より効率的、効果的な調査ができる可能性もある。

○委員発言

ふれまちへのアンケート（資料3-4）では主にハードについての質問が列挙されているが、組織運営のことも一緒に聞いておかないと、ハードの運営との関連が見えてこないように思う。我々としては組織運営のほうに関心があるので、その点についても併せて聞いていただくようにしたほうが良いと思う。

○委員発言

改善提案を作成したので、みなさまに見ていただくため、後ほど時間をいただきたい。

○委員発言

管理運営というよりも、施設の使いやすさや使いづらさがこのアンケートからも見えるように設問を変えていただけたらありがたいと思うので、ご一考いただきたい。

○委員発言

集会所の助成では自治会館等もあるが、今回は地域福祉センターのみが対象ということでよろしいか。

○委員長発言

そのとおりである。

○委員発言

地域福祉センターの将来像を考えるためのアンケートとのことだが、非常に限られた施策目的であるように思える。5年先のイメージのためにやるのであれば、ハードとソフトの合わせ技で、もう少し地域活動支援策の検討についてもアンケートを設計する上で考えたほうがよいのではないか。このようなアンケートを行う際、何か将来像が出てくるだろうという楽観的なやり方では、結局物事が小さな範囲で収まってしまいか、何も出てこない。むしろ、本来地域活動支援策が根底になくてはならない。例えば、地域福祉センターの廃嫡や統合、あるいはふれまの小学校区単位の見直し等、ハードとソフトを合わせた、総合的かつオルタナティブ（択一的）なプランニングを行い、地域住民や行政がどれを選択するかということのための調査をされた方がよいのではないか。

すなわち、地域活動支援策と絡めて、地域福祉センター施設の将来像がソフトとハードそれぞれ具体的に3案ぐらいあるのか伺いたい。またそれを基に、アンケートの検討を行っていただきたい。

○委員長発言

アンケートに関するこれまでのご意見を要約すると、今回のアンケートの設計の仕方によっては、ワーキンググループの方に過剰な負担がかかってしまう可能性もあ

る。あるいは、ハードに偏りすぎたアンケートに見受けられるが、ソフト部分の知見が相当出てくるようなアンケートにするほうが得策かもしれない。

また、地域福祉センターのハードの在り方を議論する以前に、ソフトとしてのふれまの今後の在り方に関する明確なビジョンがないのはおかしい。ソフトが明確でないのにハードから先に取り組むのは、すなわち、ビジョンそのものがハードの在り方によって変わるような一貫性のないものなのかというご指摘もあったが、事務局としてのご回答はいかがか。

#### ○事務局発言

ソフトの部分からというご指摘について、現在小学校区単位で地域福祉センターを拠点にふれまが活動するという形で進んできており、この制度が始まって30年たつが、基本は地域の方のボランティア、自主的な活動でやっていただいている。区役所のまちづくり課が、ふれまの日々の活動を把握はしているものの、細かいところまでなかなか把握ができていないのが現状である。そのため、まずこのところの正確な情報を集めたうえで、ソフトの部分の次の展開等を検討していきたいと考えている。

#### ○委員発言

事務局のご説明によると、長年歴史のある地域福祉センターを廃止するという選択肢は前提にないような印象を受けた。

すなわちハードは課題があっても活かし続けたうえで、いかにそれを効率よく地域の拠点にしていくかという戦術の下、今回の支援策があるという位置づけを明確に出すのがよいと思う。位置づけを曖昧にすると、支援策が非常に中途半端になるのではないか。

#### ○事務局発言

今のご指摘はこれまでの神戸市の考え方であり、それがそのような方向性でよいのかどうかも含めて、現状を正確に把握した上で今回考えていきたいと考えている。

#### ○委員発言

その場合、支援策はあらかじめオルタナティブに目標設定をしておく必要があると思う。現状だと、アンケートの延長線上から何か結果として出てくるのではないかという期待が見られるが、あらかじめ着地点を複数持っておいて、ケースに応じてどの施策が必要になるかという選択に結びつけていかないと、議論がまとまらない。

#### ○委員発言

その点についてはまさに危惧しており、ワーキンググループについて行政から打診された際も、下記2点を意見した。

一点目は、ワーキンググループのヒアリングや会議については、本委員会の先生方にはオープンにして、オブザーバーとしてご参加いただきたいということ。

二点目は、どんな住民自治協議会、どんな認定ふれまちにするのかというビジョンなくして、その拠点であるセンターの話はしづらいということである。それ故、本委員会のほうで、ある程度認定要件のような検討を少なくとも今年度から並行して走らせてほしいということは強く意見した。その一方、択一的な選択肢に至るまではまだ想定しておらず、民主的な運営の規定を一旦合意できれば、センターの使い方も自然と出てくるのではないかと考えている。

さらにもう一点、ワーキンググループメンバーの人選を拝見すると、地域福祉センターだけでなく、商店街の空き店舗等他の場所を活動の場にしていくことにお詳しい先生方も参加されるように見受けられる。そのため3回しかないワーキングでは、前半にそのような広げた話をせざるを得ないと考えており、センターの管理運営やハード面の話については、スケジュール的にまだ想定していない。

#### ○事務局発言

この制度を30年続けているものの、担い手不足も含めて、明確に方向性について答えを持っているわけではなく、悩んでいるというのが正直なところである。

これまで中心になってきている活動の場と、活動の主体であるふれまちの状況を把握するという意味で、今回のアンケートではセンターの活動の場というところを中心

にしており、本日いただいたご意見を踏まえたうえで、再考も検討している。

○委員発言

基本指針の進捗状況（資料2）についても、若者の参加を促すような新しいメニューが多く組み込まれているが、このアンケートの中でも、子育て世代等の若い人たちに対してふれまちでどのような支援をしているのかを、聞けるような工夫はできないだろうか。例えば、子育て世代が活動の際の場所探しにとっても苦労しているという話も聞いているので、運営協力金の減免に関する設問の選択肢に子育て世代を組み込むなどはどうか。

○委員長発言

全く同感である。では、このワーキンググループに関わっていただく委員にはご苦労をお願いするが、開催するときには、参加できる委員は積極的に関わって参加してよいと聞いているので、そのときは行ってやってもいいということで、皆さんによりしくお願いしたい。

○委員発言

アンケートについて、事前に準備した改善提案（参考資料1）を述べたい。まず設問はちゃんと絞り込まねばならず、目的がはっきりしないものは削る。また、協力してもらうためには依頼文が大事なので、作成したら見せてもらいたい。

また、アンケートの内容を見る限り、今の運営に批判をしていると受け取られないようにする配慮が感じられ、名目としてコロナ前後の状況の変化を調べるような設問が非常に多いように見受けられた。しかし、管理運営の方法の見直しについて改善の提案を求めるということについても、明確に趣旨の中に盛り込んだほうがすっきりする。実際、今年度から神戸市は、こども食堂をふれまちでやることを推奨したり、ICT化を進めているので、何か神戸市が変えようとしているのは、ふれまちの方々も薄々お気づきと思う。それならば変に今の実態を聞くよりは、見直したほうが良いところの声を集めた方がよいのではないだろうか。



また、当アンケートにはフェイス（基礎情報）部分がほとんどない。単純集計ならまだしも、当然他の項目と掛け合わせるクロス集計がないと分析できないので、フェイス部分は少なくとも入れる必要があるだろう。聞かなくとも分かるものもあるが、ふれまちの運営状況や会議の頻度、現状の管理運営の満足度等、自己評価でよいので数値化して聞くことが必要と感じられる。

さらに、施設管理運営の状況を調べるのであれば、稼働率を問う質問は必須であるはずだが見当たらない。部屋ごとに把握するのが難しいようであれば、主な部屋の大体の利用頻度だけでも把握できないと、今後施設に必要な機能が分からない。自由記述の部分については、今困っていることについて尋ねるよりも、こうすればいいという改善提案を書いてもらった方がよい。

開館状況について聞く中で、休館日については、書き方は検討すべきだが、ここである程度の稼働率が把握できる。逆に休館日や夜間に開館しているケースについての質問は、目的が不明確なので削除してもよいと思われる。

むしろ聞くべきなのは、施設の利用状況（コロナ前の施設の利用団体の割合）についてである。利用パターンは、（A）ふれまち自体の利用、（B）ふれまちの構成団体の利用、（C）ふれまち以外の団体や個人への貸し出し、の3つが想定される。認定ふれまちになると、恐らくCの部分をどれだけ開いていくのかが重要になると思うので、その割合や、（B）や（C）の利用の際、運営協力金（実質的な利用料）の徴収の有無は聞いておいた方がよい。意識して貸し出しをしてないところがあるかもしれないため、「把握してない」という項目も設けること。

予約・申し込みについては、予約受付期間と、いつまで予約を受け付けているかを新たに聞くようにした。ここで、予約受付の在り方の硬直さや融通性が見えてくると思う。予約の管理方法については、目的が不明確なため不要に感じる。予約管理簿の有無だけ小出しで聞けばよい。

貸館についても、貸館を積極的に行っているのか、利用者が限定されているか、

一切貸していないかは重要なポイントなので、原案から大幅に変更した。また、貸館を積極的に行わない理由は確認しておきたい。人員不足、施設の老朽化、利用者のマナー、受付の負担等、要員となる問題は様々である。そもそもふれまち以外へのセンターの貸出を快く思わない人もいるかもしれない。それを複数回答で聞くことで、現在の貸館状況の実態と何が問題であるかを、ある程度把握できる。

管理当番については、原案の「受付」という表記のままだとわかりにくいので、「開館担当者」とし、自由回答部分については、管理当番に加え鍵のことについて、お困り事以外に改善提案も書いてもらえるようにした。

稼働率と運営協力金については、本来は施設内各部屋の稼働率を運営協力金と併せて聞いておきたいところだが、ここまでは難しいかもしれない。設備や備品についての使用料については、項目の順番を入れ替えてはいるが、ここも不要であるように思う。

また、各部屋の運営協力金や設備使用料に関して、新型コロナの影響で金額を変更したかを聞く自由記述については、先ほどご意見があったように、ここでもお困り事だけではなく、改善提案を書いてもらえるようにした方がよい。

さらに、フェイス部分となるふれまちそのものについては、まずどんな団体に構成されているのかを確認する。また、地域の各団体の長の負担の度合いを確認するという意味で、ふれまち協の委員の選出方法についても聞いておく。現状がわからないので、文案や割合については要検討である。役員会の開催頻度や部会に関しては、ふれまちな標準規約を参考に聞いている。また、ふれまちな活動とセンターの管理に対して、コロナ前とコロナ後、それぞれ10点満点中何点かを自己評価してもらい、その理由を聞くようにした。加えて、どんな設備や備品があるとよいか、あるいは子育て世代を巻き込むために、どんなアイデアがあるか等聞くと、コロナ禍の中でも前向きなアンケートになると思う。

○委員長発言

この場で案を決めるのは時期尚早のため、事務局の方から修正案を各委員に送ってほしい。そのうえで一定の締め切りを設けていただき、各委員からいただいた意見を基に最終成案にするということで、委員長の方で預からせていただきたい。

○事務局発言

了解した。締め切りを含め検討させていただき、あらためてお知らせする。

○委員長発言

アンケートとは単なる現状調査ではなく、自己啓発の側面も持つ、いわばツーウェイのコミュニケーションであるが、アンケート原案はその要素が弱く、地域自治協議会に移っていくための将来の認定要件について何が必要か、ふれまち自身の意識づけになるような設問になればよいと考えていた。

またアンケート原案では、設問が地域福祉センターのことに絞り込まれていたため、ふれまちが悩んでいることやこうしてほしいという希望が見えてこず、地域福祉センターの利用実態がよく見えなかった。例えば他都市の事例のように、指定管理者の自主事業や利用料金制の導入で海路が開けるのか等、そういうことも含めて条例改正の方向を再検討されると思うので、施設利用の内容を知りたいと考えていた。

この度の改善案により、ふれまちの活動実態や現在困っていることまで把握できるようになったのは、優れた改善であると思う。また、将来の認定ふれまち協に進んでいくためのコース設定も、ある程度見えてくるようなアンケートにしてはどうかと考えていたので、改善案は、ふれまちの現状と併せて、地域福祉活動センターの使い方について並行しながら議論できるようなアンケート設定になっていると思う。

議題は以上であるが、他にご意見などは。

○委員発言

進捗状況の中にあるプラットホームの機能強化という項目について、自分は市民活動団体と区役所とのプラットホームだと思っていたが、行政の職員同士のプラットホームのようなニュアンスで使われる場合や、あるいは市民活動団体が区役所を拠点

にプラットフォームを形成するようなニュアンスで使われる場合もある。プラットフォームの概念が曖昧なまま、プラットフォームの機能強化が提示されているので、事務局に補足説明をお願いしたい。

#### ○委員発言

プラットフォーム関連で、神戸市がこども食堂とか子育てに力を入れて、地域福祉センターでふれまちにやってほしいということで、今度、高倉台で立ち上げようかと思っているが、コロナ禍で計画が遅れている。

これまで私も地域福祉センターで地域の子育て世代との交流などに取り組んできたが、先ほどのアンケートの改善提案を聞いて、こういうことをやはり聞きたいと、ふれまちの委員長としても今思った。貸館の状況なども回答できると思う。

ふれまちの組織運営についても、各地域の各団体が入っており、私の地域においてふれまちはなくてはならない団体であると思うし、小学校区で活動してほしいと考えている。

これまでも自分の地域では、子どもたちやそのお母さんも集まるような世代間交流の機会を設けてきたが、今後も色々な世代を巻き込んでいけるような呼びかけを行っていったらと思う。

#### ○事務局発言

プラットフォームについては、基本指針で示す方向性は、NPOや企業、あるいは大学との連携強化であることは間違いない。この方針の下、区役所やつなぐラボはこれまで施策に取り組んできた。行政として、そのような場づくりや媒体あるいはつなぎ役としての役割をもう少し明確にするという意味で、目指す方向性は、地域団体の方々に、NPOや企業、大学といった別の主体とうまくつながっていただくことである。

#### ○委員発言

プラットフォームは、やろうと思えばすぐにでもできるものなので、きっちり形作

って一斉に始めるよりも、区役所ごとに可能な形でスタートできればと思う。

今までプラットフォームの機能を果たしていた「区民まちづくり会議」があったが、現在なくなってしまった。それに代わってプラットフォームができるかと思ったが、現状は空白状態のようになってしまっているの、早く形を作っていく必要があると思う。

○委員発言

区民まちづくり会議がなくなったのは、全市一斉なのか。何故なくしたのか。

○事務局発言

補足でご説明させていただくと、区民まちづくり会議については、これまでは一律に各区で行っていただいていたが、令和2年度からは各区の状況に応じて行っていただくという形に変更となった。

○委員発言

では、今でも続けているのは何区になるのか。

○事務局発言

現状、東灘区・垂水区・西区以外は何らかの形で開催していると確認した。例えば、灘区では後継の会議体が立ち上がっており、兵庫区ではみらい会議という形で取り組んでいる事例がある。

○委員発言

須磨区も、まちづくり会議自体はないものの、ワークショップ等を開催し、来られる方は来てくださいというようなことをしていたと思う。

○委員長発言

基本指針の進捗状況に関するフローチャート（資料2）は、非常に重要なスケジュール表になってきており、このチャートの書き方にも今後事務局には気を配っていただきたい。年度の置き方だけではなく、流れの移り方というのは非常に重要な政策的転換である。先ほどプラットフォームの概念が変質しているのではというご指摘があ

ったが、その点についても事務局・委員ともに留意していきたい。

では、本委員会の役割も含めた今後に向けての期待と、事務局への希望があれば、各委員一言ずつご意見をいただきたい。

○委員発言

施策の進捗状況というのは、年度ごとに変わっていくので、基本指針の進捗状況（資料2）は変化がよく理解できる。そういう意味で、今後も将来に向かって進捗状況を表してくれるとありがたい。

また、2021年度および2022年度の欄で「新」と書いてある項目の進捗状況については、年度末に何らかの形でお伺いできるとして、では「新」とついてない項目の進捗状況に対する政策評価あるいは進捗評価については、いつお聞きできるのかを期待している。

○委員発言

地域福祉センターのWi-Fiの整備は、進捗状況には今年度中とあるがいつになりそうか。こども食堂やこどもの居場所づくりをするとすると、やはり子どもたちがiPhoneやタブレットを持ってくるのでそれらも使いたいと考えており、できれば早くWi-Fiをつけていただければと思う。

○委員発言

ふれまちへのアンケートについて、一言でふれまちと言っても非常にその活動方針は多彩であるが、このアンケートでその実態がかなり解明されると思うし、これから基準をどこに置くのかが非常に重要になると思う。ふれまちにどこまでの団体が加盟しているのかという点も重要である一方、地域によっては人間関係が複雑で、組織の中で偏った構成がなされている場合もあると思うが、そこは行政のほうで調整をしていただきたい。

○委員発言

ふれまちへのアンケートに関しては、かっちりした枠組みの回答だけでなく、運営

並びに施設の使いづらさ、使いやすさについても見えてくるかと期待している。その一方で、長年の課題である担い手という部分が、アンケートの中から果たして見えてくるのかという点について懸念している。

また、基本指針の進捗状況について、2021年度の欄に「新」のつく項目が多くあるが、タイトル的な形だけではなく、具体的に取り組みが進んでいるものや見えているものがあれば、もう少し詳しく別紙で表示していただければありがたい。たとえば、子育て支援のメニューの拡充についても、どんなふうに拡充しようとしているのか、あるいは、どういったものが進んでいるのか等を、詳しく見たかった。

さらに、地域福祉センター以外での活動の可能性をどのように認めていくのかという点についても、これから知っていきたいところである。担い手という名札をつけた人はいないので、どのような人が参加できるのか、どう声を掛けていくのか、あるいは、現在の担い手がどのような人を求めているかということが、もう少しはっきり見えるような形に進めていかないと、なかなか進展しないように感じる。

#### ○委員発言

コロナ禍により閉館しているセンターも多く、活動ができていない中、コロナ禍が終わった後、どのように人が集まってこられるか懸念している。長くセンターから離れていると、人が戻ってこられるのかが心配になる。子育て世代に対しての支援に限らず、様々なことが困難な状況にあるように思う。

また、児童館と併設されたセンターについては、子どもたちの事業が重きを置かれているが、その他のセンターについては、高齢者を優先した事業に偏っているところが多々見受けられる。その辺り、これからどのように入り交じって活動ができるかがこれからの課題であるように思う。若い人たちの話を聞いていても、なかなか子ども食堂等子育て世代の支援に地域で目を向けてもらえない状況の中で、これからどのように取り組んでいくのか、我々が注意深く声を掛けていくことが必要と感じる。

#### ○委員発言

やはり活動の場のことを議論する前に、ビジョンのようなものがないと、今の地域団体の要望をどこまで受け止めればいいのかわからなくなってしまう。中には受け止めねばならないものもあれば、この機に変えてもらわねばならないものもある。その議論をぜひ、本委員会でもちゃんとしていただけるよう、重ねてお願いしたい。

#### ○委員発言

本日の議論を聞いていると、行政は先導的に道を示すのではなく、これからは多様性の時代なので、市民が自ら選択肢を選べるような誘導型の施策が、ますます必要になってくるのではないかと感じた。

しかし、やはり行政は責任感が非常に強いように感じるが、むしろ誘導的な質問をしていくことで、市民側が自然に動いていくようにすることが行政の役割のように思う。そういう意味では、プラットフォームは非常に大事な役割だと思うので、ぜひ力を入れていただきたい。見える成果を上げねばというのは分かるが、今は見える成果が簡単に単年度で上がるような時代ではないので、息長く辛抱強くやっていくことが必要かと思う。

また、地域づくりというと、どうしても福祉が中心というニュアンスが強い。やはり若い世代や新たな担い手を巻き込んでいくためには、「社会づくり」のような、社会という言葉を前面に押し出して誘導することが必要ではないかと思う。

#### ○委員長発言

そもそも神戸市の地域活動推進委員会は、世間に比べてもスタートが早かった。しかしそのスタートラインが、いわゆる特定非営利活動促進法のスタートと軌を一にしており、どちらかというとならNPO支援の側面が非常に強かったように思う。それが途中から地域も大事という流れに変わってはいったが、本委員会はやはり両方を追求する組織であったと自分は考える。

NPOも地域コミュニティの活性化も、両方住民自治であり、自治会や婦人会等の地域団体が弱体化すると、団体自治にコストがシフトし、行政に全部負担が返ってく



るのは明らかである。しかし行政もいつの間にかそのことを忘れてしまい、地域団体との意思疎通のコストに手間を取られている意識が強くなってしまい、手を切りたいという世代がでてくると、地域は弱体化していく。それは、社会資本の崩壊であり、資産の喪失である。

そうなる次には、犯罪が多発したり、災害のときの助け合いのネットワークが弱体化したりするので、結局は役所の責任が重くなる時代が目の前に来ている。行政を民営化、あるいは効率的に機械化すれば解決できると考えている人たちもいるが、それは誤りである。

そういう意味で、NPO支援もコミュニティ活性化も両方非常に大事だと考えており、できればその2つが、市民社会の縦糸と横糸のようにうまくつながるようなコミュニケーション回路をつくっていく仕事にグレードアップしていきたいと感じている。

NPOと地域コミュニティでは、スタートラインの共通性が取れないという宿命がどの自治体にもあるが、神戸市の場合は、ようやく共通のスタートラインに立てる良い時期まで来たのではないだろうか。

確かにふれまちは千差万別ではあるが、各区に見本となるようなところがあるはずである。できれば、そのふれまちな事業例等を他ふれまちと交換できるように、情報公開してもらってはどうか。良い事業例は、他のふれまちな励みにもなる。みんなが学習できる事例を開拓してほしいと思う。その中でも狙い目は、やはり子育て支援である。また、地域で孤立している若者をもっと引っ張り出してくることも、これからの課題として出してほしい。

事務局へのお願いはもう一点、各区で退職者の社会復帰のための様々な生涯学習プログラムを行っており、そのレベルが非常に高い。ふたば学舎や勤労福祉センターでも開催されている。しかし、地域に入っていきたい、あるいはNPOに関わりたいと考える人材は多く輩出されるのに、その人たちをつなぐことができていない。それらをつなぐようなシステムの開発を、当初ふたば学舎に期待していたが、どうも難しい

らしく、これを行政に何とかしてほしい。

神戸市で開催されている様々な生涯学習講座の中から、地域の自治会長やNPOの次のリーダーが出てくる可能性は高い。しかし勉強させる仕組みはあるが人と人をつなぐ仕組みに欠けているので、その可能性をもっとつないでほしいと思う。

#### ○事務局発言

いただいたご指摘を踏まえ、問題意識を持っているのは数点ある。

まず、多くのご指摘があった担い手づくりや人間関係のつながりの仕組みについて、行政が関わりながらどのようにつくっていいのか。もともとは、ふれまちな活動拠点として地域福祉センターを老人憩いの家から展開していくというスタートであり、指定管理者制度もその後にできた。そのため徐々に制度的に、周辺環境の整備も変わってきている中、今回掘り起こしてアンケートをする必要があるところまで変遷している。事務局が懸念しているのは、委員の皆様のご意見も踏まえたうえで作成したこの実態調査が、地域にどう取られるかであるが、そこは前向きに出しつつ、地域に丁寧な説明を行い、しっかり実態を把握したうえでカルテをつくっていく。そのカルテに基づいて、将来像や施策に結びつけていくというエビデンスにしていきたい。

もう一点、現行の地域福祉センターの小中学校区について、これまで統廃合してきた中で、今の実態とどこまで合っているのかということも、見極めていく必要があるかと思う。

最後の一点は、地域福祉センターの今後についてである。建物が非常に老朽化しており、仮に地域福祉センターを全面的に改修していくとすると、概ね300億かかると言われている。その財源をどう確保し、ふれまちな機能としてどのように行政と関わりを持つような仕組みをつくっていいのか、また、これをどのように持続的にやっていけるのかということについては、先生方のご意見を賜りつつ今後も勉強していきたい。

いずれにしろ、地域のコミュニティという意味で、我々としてもふれまちなベース

にしながら考えていく必要があると思っている。今後ワーキンググループ等でもう少し深掘りしたような御意見もいただきたい。また、今回新規施策や既存施策を含む全体の進捗について検証していただくには、もう少し資料を掘り下げないと議論いただけないと感じているので、次回以降しっかり修正をさせていただきたい。

地域コミュニティ施策については、大都市が共通して岐路に立っていると考えているため、30年前に神戸で生まれたこのふれまちという制度を再構成し、全国に先駆けるような神戸モデルのような形で展開できればという思いは強く持っている。今後とも委員の皆様につきましては、ご支援ご協力、心からお願い申し上げます。